

令和 6 年 6 月 5 日現在

機関番号：12501

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00624

研究課題名（和文）宮古語大神方言の総合的研究 - 文法体系の記述を中心に -

研究課題名（英文）Comprehensive study of the Miyako language Ogami dialect

研究代表者

金田 章宏（KANEDA, Akihiro）

千葉大学・大学院国際学術研究院・名誉教授

研究者番号：70214476

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：宮古語大神島方言はとりわけ音声現象に特徴があって注目されてきたが、文法記述や語彙記述については十分なものがなかった。そこで代表者は、島の最高齢者から聞き取り調査を行い、文法記述を中心に語彙の収集にも努めた結果、周囲の宮古語諸方言と異なる興味深い文法的特徴が少なからず見られることを論文や発表で公開した。また、音声付きの用例も大量に記録することができたので、それらも含めて今後インターネット上で公開する予定である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

宮古語大神島方言は宮古語のなかでも特徴的な方言であるにもかかわらず、島の人口は20人を切り、消滅の危機が最も懸念される方言である。その方言の文法を詳細に記述し、語彙や音声付きの用例を豊富に収集したことは、将来的に大神島方言の復興を目指す際のきわめて大きな基盤となるものであり、学術的にも社会的にも大きな意義がある。現在これらの成果を引き継いで実施されている科研で、その集大成の成果が公開される予定である。

研究成果の概要（英文）：The Ogamijima Dialect of the Miyako Language has been attracting attention, especially for its distinctive phonetic phenomena, but the descriptions of its grammar and vocabulary are still insufficient. The author of this report has conducted a number of survey interviews with the oldest person on the island and made an effort to collect vocabulary, focusing on grammatical features, many of them different from the surrounding Miyako dialects, whose results were later published in academic papers and presentations. In addition to those, the interviewer managed to collect a large number of relevant audio recordings, which will be made available on the Internet.

研究分野：日本語学

キーワード：宮古語 大神島方言 文法記述 語彙集 方言テキスト

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

本研究が研究対象とする宮古語大神島方言は、ほかの宮古語諸方言に見られない特徴をいくつも有している。とりわけ特徴的な音声・音韻の分野では、これまでにフランス語で執筆された Pellard2009*などいくつかの研究がなされてきたが、文法の分野では広範囲ではあるが記述の簡単な Pellard2009 の記述内容を超えるような詳細な研究がなかった。また、用例などの方言テキストもこの段階までほとんどなかったといっていよい。

代表者のこれまでの研究で、音声・音韻の面だけでなく文法の面でも注目すべき現象が少なからず見られることが分かっている。こうした調査のなかで、方言テキストも徐々に蓄積が増えてきている。

大神島方言の詳細な調査がなされてこなかった理由の一つに、この島の宗教的な特徴があると思われる。この島の神行事は高齢の女性のみが担っているが、その内容は厳密に秘匿されてきた。また、2013年までは宿泊施設もなかったため、日帰りの調査しかできなかった。このような調査の難しさが調査の深化を妨げていた可能性は否めないだろう。

2. 研究の目的

大神島方言は話者数が二十人程度で、琉球諸語の諸方言のなかでも消滅の危険度は極めて高いため、早急な調査研究が必要である。本研究では豊富な実例をもとに文法体系の詳細な記述を中心に行いながら、音声・音韻のこれまでの記述をさらに深め、収集中の語彙数を増やして意味記述を豊かなものにしていく。あわせて、用例の豊富なテキストを作成し、この方言の全体像を可能な限り記述することで、記録保存のみならず継承のためにも有用な良質の言語資源の作成を目指す。

本科研の目的であり大きな特徴である点は、大神島方言の言語現象を総体的なものとして記述しようとする点である。それは、世に多く見られる個別テーマの研究からは得られない、一言語、一方言の音声・語彙・文法の全体記述である。代表者は過去に伊豆諸島の八丈方言についてこの手法で調査研究を行い、当時としてはほかの諸方言には例のない大きな成果をあげている*。

3. 研究の方法

基本的には現地調査を繰り返し、少しずつ方言資料の質を高め量を増やすことである。それにより分析の精度をあげていく。未知の部分が多い方言では、調査を繰り返すことでらせん状に少しずつ資料の質を高めていく必要がある。そのためには膨大な時間と労力を要するが、そこには現地の方言話者との親密な人間関係、信頼関係が不可欠である。そうした関係をベースに、良質の資料を蓄積していく。

ただ、現地の話者はみな高齢で、とりわけ代表者の対応をしてくださる話者は島の最高齢者であるため、連続の長時間の聞き取り調査はほぼ不可能で、1回の調査では数日以内、かつ一日2～4時間が限界であるため、短期間の調査を何度も繰り返すことで、話者の負担を可能な限り軽減する必要がある。(本科研の中心的話者である狩俣英吉氏は、2023年4月に98歳で亡くなりました。ご冥福を祈ります。)

4. 研究成果

当科研による調査は毎年度5回ほど実施し、さらに、ほかの予算による調査も年に数回実施することができた。これにより、文法記述や語彙集その他に必要な情報をきわめて順調に得て整理することができた。

語彙集は令和4年度には3千5百語ほどまで増やすことができた。また、これまで調査して文字化していた資料と録音とを文単位で切り取って関連付ける作業を継続して行なってきたが、これも合計約6千7百余文を作成することができた。さらに、現地話者による単語や文の発話の動画はこれまでの期間に2百以上記録済みである。これでもまだ十分な数とはいえないが、これにより、音声・音韻に大きな特徴のある大神島方言を視覚的にも捉えることができるようになってきている。

発表論文としては、令和4年度の「宮古語大神方言 助辞 na: の複数性をめぐって」で琉球諸語に広くみられる助辞ナーについて、大神方言ではきわめて特徴的に文法的意味の使用範囲を広げていることを体系的に記述した。また発表論文としては、「大神方言の強調辞 tu の位置づけ」、「存在動詞 u₁ (いる) と組み合わせるいくつかの述語形式について」、「移動と目的の構文 - 宮古語大神方言を例に -」、「比較をあらわす助辞のとりたて性について - 日本語と宮古語大神方言の検討から - 」がある。前年度までに公開された多くの論文や発表をふくめて、本科研が

目指す総体的な文法記述のパーツが着実に揃いつつある。

以上の成果は、令和5年度からの新規科研に引き継がれ、令和7年度には言語三点セットである辞書、文法書、テキストを完成させる予定である。

*Pellard, Thomas. 2009. Ogami: Éléments de description d'un parler du Sud des Ryukyu. Ph.D. dissertation, École des hautes études en sciences sociales.

※金田章宏(2001)『八丈方言動詞の基礎研究』笠間書院

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 金田章宏	4. 巻 46号
2. 論文標題 宮古語大神方言 助辞na:の複数性をめぐって	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 85-106
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金田章宏	4. 巻 45
2. 論文標題 宮古語大神方言 形容詞語幹の用法 文における重複語幹の機能を中心に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 琉球の方言	6. 最初と最後の頁 203-231
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金田章宏、周ゲツ	4. 巻 28
2. 論文標題 「とりたて」としての名詞カラ形 - 南琉球諸語から日本語を考える -	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 対照言語学研究	6. 最初と最後の頁 19-39
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計9件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 宮古語大神方言のとりたてにかかわるいくつかの文法現象
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 比較をあらわす助辞のとりたて性について - 日本語と宮古語大神方言の検討から -
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会総会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 移動と目的の構文 - 宮古語大神方言を例に -
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 存在動詞uL(いる)と組み合わせるいくつかの述語形式について
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 大神方言の強調辞tuの位置づけ
3. 学会等名 令和4年度 第2回「危機言語の保存と日琉諸語のプロソディー」国語研合同研究発表会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 宮古語大神方言の敬語法
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 宮古語大神方言の局面表現にかかわる諸形式
3. 学会等名 国立国語研究所危機言語・方言プロジェクト 令和3年度 第2回「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」オンライン研究発表会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 宮古語大神方言 形容詞重複形の機能を中心に
3. 学会等名 国立国語研究所危機言語・方言プロジェクト 令和3年度 第1回「日本の消滅危機言語・方言の記録とドキュメンテーションの作成」オンライン研究発表会「格と形容詞」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 金田章宏
2. 発表標題 大神方言の複数性にかかわる助辞na:について
3. 学会等名 沖縄言語研究センター定例研究会
4. 発表年 2021年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------